



8/11 ~ 14 立山室堂から新穂高

・・・2900m ~ -5mへ・・・

8/16 香住シーカヤック

8/17 万ヶ谷遊行



・・・2900 mから－5 mの世界へ・・・

8/11

北アルプス縦走

メンバー・・・大塚賢一、石野美輝郎、横小路利朗、大倉康治、大倉真樹、田代恵子

天候・・・濃霧、雨、曇り

コース・・・立山室堂平>一の越>龍王岳>鬼岳>獅子岳>ザラ峠>五色ヶ原>鳶山>越中沢岳>スゴテン場

行同時間・・・7:30～17:30



ガスの室堂平



龍王岳をトラバース

夜行バスで立山の室堂にAM7時に着。さすがに夏山のメッカとあって登山者でごった返している。

天候は予想通りの曇り空であったが、おまけに濃いガスが出て美しい室堂平もほとんど見えない。

午後からの天候を期待しつつ一の越2705mへと足を運ぶ。ここから南の龍王岳2872mとコースをとると、そこにはもう誰も登山者がいない静かな岩山へと変わっていく。

今回はこの龍王岳を巻いて鬼岳2750mのコルに着きたかったのだがこのガスではどうしようもない。山スキーなら動きよ



越中沢岳と北薬師岳



越中沢岳の下り

うのないガスだ。美しい五色ヶ原2500mもやはりガスでほとんど見渡せない。みんな気が滅入ってくる。しかし、今日の日程のまだまだ前半なのでここに落ち着くことはせずに鳶山2616mへと登っていく。鳶山の下りにさしかかるころサーッとガスが一瞬ではあるが晴れる、思わずシャッターを切る、見事なハイマツの濃いグリーンに覆われた越中沢岳と山頂がガスの覆われた北薬師岳が姿を現した。天気が晴なら疲れも半減し爽やかそのももなんだが。

越中沢岳2591mの山頂にさしかかる頃、大粒の雨が降りだしてきて素早く装備変更するがなんともじゃまくさい。雨とガスの中をややこしい岩綾地帯の

下りで疲れてしまう。下りの途中でいきなり太陽が顔を出してくる？、一体今の雨はなんやったんや？。雨具を脱ぎ通常の行動に戻るがここから今日の正念場でスゴ乗越しを経てスゴのテン場までの延々とうとうしいヤブ中を下っては登りの連続である。当初はここでビールと水を仕入れて間山2585mを越えたところに雪渓があるのでそこにテン場を張ろうと言っていたのだが、この悪天候や装備変更に手間取りメンバーも疲れ果てていた。スゴのテン場では雨も上がり何とか外で炊事をする事が出来た。ここで上高地から入ってきた外人1人と出会う、彼は横尾から前穂、奥穂、槍、双六、黒部、薬師と越えて、これから剣まで行くと言っていた。健脚ではあるが一日の行動パターン

は我々の半分の距離である。彼は1週間前に入ったが晴れた日は一度もなくガスと雨ばかりだったと言っていた。濃霧で転んだと言って膝に痛々しい勲章をこしらえていた。

不思議なことに食事をしているときに越中沢岳に大きな虹がかかって楽しませてくれた、またこの日の夜は素晴らしく晴れて満天の星空に恵まれ、後立山の白馬岳近くでの稲光が綺麗だった、「明日はこっちは来るなよっ！」と、祈って眠りについた。

山スキーでもここまで行程を一日でこなしたいのだがややこしい鬼岳トラバースや越中沢岳の崖のような登り下りは雪が付けば一体どのような形相に変わっているのだろう、とんでもない危なっかしいところである。

8/12

天候・・・曇り、ガス、強風、雷、大雨

コース・・・スゴテン場>間山>北薬師岳>薬師岳>薬師平>薬師峠>太郎平>太郎山>北ノ俣岳>赤木岳>黒部五郎岳>黒部五郎小屋

行動時間>6:00~17:30



北薬師から薬師へ

5時起床で早々に朝食を済ませて私と恵ちゃんの2人で先に出発。間山2585mの急登を経ると絶好の隠れテン場に着く。曇ってはいるもののガスも少々取れてきそうな感じだが、北薬師岳2900mはスッポリとガスに覆われている。北薬師から薬師に向かう途中でみんなと合流。ガスの中で切り立った大岩をガチャ

ガチャと音出しながら進んでいく。薬師岳2926mに着く頃には視界



薬師岳山頂



薬師峠から太郎平

ら北ノ俣岳2661mを目指す。北ノ俣岳山頂に着く頃は気温も10度と低くなりものすごい強風が吹き荒れ濃霧で視界もままならず、「これでも真夏か?」と言わんばかりである。赤木岳2622mを過ぎて中俣乗越2520mで一服入れて今日のメインの黒部五郎の肩2760mの登りに備える。しかしこんなに一日中ガスの中では山頂を踏んだとて何も感動がなく、ただただつらいばかりの行そのものである。黒部五郎のカールを下る頃にはまたもや空が泣き出し、今度は雷のおまけ付きでヒヤヒヤものである。雨は一向にやむ気配がなく本降りとなり登山道も沢筋なので見る間に水量が増してくる。雨具を着てはいるものの中

もままならないくらいに濃いガスであった。ここでノースフェイス主催のレースで立山から太平洋に向かって山岳レーサーと出会う。簡単なデイバック一つで運動靴で飛ぶように走っていた。何日間で何処の山々を経て太平洋に向かうのか定かではないが面白いレースがあるものだ。我々も展望のない山頂を早々に立ち去り山小屋を通過して薬師峠2300mへと向かうころ、昨日と同じように一瞬ガスが晴れ渡り太郎平2330mが一面に見渡せた。美しいところである。山スキーでは薬師岳からあの赤い屋根を目指して豪快なシュプールが描けるであろうことを祈る。太郎山から再び雲中さまよいなが

まで浸透してパンツまでビショビショで靴中はずぶ濡れである。そんな中で雷鳥の親子8羽が道先案内をしてくれて少しはなごませてくれた。

17:30にテン場2350mに着くがドシャ降りの中でテント設営する気もなく小屋に素泊まりと決め込む、さすがに奥地だけあって1人5500円である。小屋内はテント撤退者達でごった返していた。しかし暖気室もあり濡れ物が乾かせるのは貴重である。テレビのニュースで今週の土曜まで天気は回復しないと予報が・・・、こんな天候で山を歩いても何も楽しくないのできっぱりと明日に下山！と、一同意見が一致する。久々に畳の上で布団にもぐり快眠する。

8/13

天候・・・濃霧、雨、曇り、晴れ

コース・・・黒部五郎小屋>五郎平>三俣蓮華岳>丸山>双六小屋>鏡平山荘>ワサビ平小屋>新穂高テン場

行同時間・・・5:00～15:00

我々の寝ている部屋が食堂になるために早朝4:00に起こされる。その代わりに1人500円バックされた。今朝方まで降っていた雨も上がり外は濃いガスに覆われて当然に何も見えない。しかし雨中行動するよりは幾分ましである。バタバタとした小屋内で朝食を取ることも出来ずに行動食で出発する。

30分ほどの急登で黒部五郎平2661mに着く、ホントはここにテントを構える予定だったのだがなあ。

三俣蓮華岳2841mに登ると登山者の1人が山に5日入っているけれどズーとこんな天候で雨かガスなので3日間も高天原温泉に浸かってたと言っていた。我々も今日の行動は三俣蓮華山荘にベースキャンプを張り北アルプスの秘湯「高天原の露天風呂」に浸かりに行く予定だったのだが・・・それもままならず。

この三俣蓮華岳は今年の5月に登頂してここから黒部五郎、北ノ俣

岳、薬師岳、そして立山も拝めることが出来て白き山々のオートルートコースは目に焼き付けている。また今日のコースも滑り込んでいるので天候さえ良ければなんら問題ない。しかし最終目的は双六から西鎌尾根を通り槍の肩までの縦走が問題であるが、これはほぼアイゼンのお世話になるであろう。そして黒部五郎に続く巨大カールの飛驒沢を滑り込んで新穂高にたどり着くのだがこれは早く滑りたい気持ちで一杯である。



双六岳東面のお花畑



西鎌尾根と槍穂高連峰

霧雨の中を巨大雪渓を左に見ながら丸山2854mへと向かう。丸山から双六岳2860mをトラバースでコバイケソウのお花畑の中を散策して小屋2550mに向かう。天候は一向に良くならず立ち寄りもせずに弓折岳2588mの稜線へと登っていく。「あれっ、こんなところに池があったんや！」と双六池の大きさに驚く。そう言えば後立山連峰の白馬大池も白い頃しか見えない。

稜線を登り詰めると、ここから見える槍・穂高連峰は素晴らしい眺めなのに雲の中である。

鏡平山荘2280mが見え始めるころ高度も2400mと降りていくと視界も開けてきて紺碧の空が雲の切れ間から顔を

覗かせている。やはり下界は素晴らしい天候のようである。だが槍・穂

高連峰の稜線は雲の中に入ったきりで一向に晴れる気配はない、どうやら 2500 m以上が別世界のようなものである。

鏡平山荘から大ノマのカールの出合いにさしかかるころ、この5月に滑って降りたスキーが懐かしく思えた。しかし天候が不順というのにすごい数の登山者が息咳きらしながら登って来ている、また気のせいかな年々女性が増えてきているように思える。

昼過ぎにワサビ平小屋 1400 mに着き今日初めての大休止を入れてラーメンタイムにありつく。天気はピーカンで今までの行程がウソのようである。

新穂高は最終バスが 14:30 と早く、明日一番のバス 7:30 に乗るためにキャンプ場で一泊する。早速温泉に浸かり山行の疲れを癒し、ビールで 1 塔 p イである。この温泉は「中崎山荘」が最高でこの新穂高で唯一の白湯温泉だそうだ、入浴料 500 円で冷たいトマトが無料でついてくる。

8/14

天候・・・真夏日和り

7:30の濃飛バスで高山まで行き、5人分の青春切符でのんびりと帰路につき今夏の山行を終えました。

8/15

山道具の整理。シーカヤック、遡行の準備。

天候・・・真夏日和り



8/16

日本海シーカヤック

天候・・・真夏日和り

コース・・・香住～余部鉄橋往復

メンバー・・・加藤一雄・大塚賢一・

木倉博・岸本陽介・田代恵子



奇岩をぬって漕ぐ



洞窟探検



漁果

8/17

万ガ谷遡行

天候・・・真夏日和り

コース・・・29号線沿いの赤西溪谷の逆に見える沢

メンバー・・・石野美輝郎・大塚賢一・木倉博・岸本陽介・田代恵子

山の上と違い真っ盛りの夏の暑い海に出かける。

シーカヤックは山行とは違いのんびりとしていて大海原に漕ぎ出ると、冬の荒波によって削り取られた奇岩をが多々あり山とは違った大自然のすごさを楽しませてくれる。これがエンジン船だったらこんな余裕も出ないと思う。また洞窟の奥深くに入り込むなんてことは不可能である。

香住から余部鉄橋方面は特に奇岩揃いで見事な氷柱摂理が多く見られる。自然界の不思議としか言いようがない。その奇岩の合間に上陸しての素潜りで海中の別世界はまた格別ものである。私は土佐銚で魚と追っかけ合いをしている。本日の成果も上々で贅沢に大アワビをバター焼きにしたりして口に運ぶ。



シーカヤックの次は今話題のマイナスイオンを浴びる、大自然の沢登りに行く。この沢はナメ沢も多くて危ないヶ所が2ヶ所ほどあるが、登攀用具を持って行けば大丈夫である。20mの大滝は右に高巻きをして獣道に入れば問題ない。沢の終了点で左岸を歩いていくと左に直径1.8mほどの土管が向こうに抜ける道である。この20mほどの真っ暗なトンネルはコウモリも生息しているのでヘッドライトを持っていけば問題ないだろう。あとは山師の道を従順に下っていけば29号線にでる。



8/18

和太鼓の練習

天候・・・真夏日和り

それらの大自然をイメージして思いつき切りバチに心を込めてたたくことが出来ました。



47回目の夏も終わりに近づいてきた今日この頃です。

千三百年も変わらなかつた美しい日本が二十世紀のたつた百年で自然の生態系が変貌してしまつた・・・、それらは世界中の先進国も同じであろう。大半の原動力が炭酸ガスをまき散らす今日の二十一世紀はさてこれからどのように変化をとげるであろう。オゾンホールが巨大化している昨今、未だに核兵器うんぬんと言っている。

我が国、我が県、我が家庭、そして自分自身、もつと見直して行くべきではなからうか？

ゼロエミッション・・・大賛成なんだがあまりにもそつな事が多すぎやしないだろうか？

人類はこの美しき地球を破壊するためではなく、未長く共存するために存在するのであると思うのだが・・・。

人類がこの地球を破壊して富みを得ようとする限り決してよくはならないだろう。

この狭い日本にまだ高速道路は必要なんだろうか？、一部のお偉方の私腹を肥やすためだけの策略ではなからうか？

8月26日南アフリカのヨハネスブルクで環境開発サミットが開幕されるがさてどのような結果が出るであらうか。